

特定外来生物(植物)の 拡大・被害防止のために

特定外来生物とは…?

これまでその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域からもちこまれた生物のことを“外来生物”といい、そのなかでも特に生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれのあるものを“特定外来生物”といいます。以下の4種は佐久市内で生育が確認されている特定外来生物(植物)であり、在来植物と生育環境を競合したり、交配することで雑種を形成したりと、もともとの生態系を脅かすことが懸念されます。

アレチウリ



似ている植物：クズ



特徴

つるを伸ばし他の植物や樹木を覆い、日光をさえぎって駆逐します。つるの生育速度が非常に速く、果実には硬いトゲがあります。発芽が5～10月頃までと長期にわたるため、期間が経つと一度抜ききった場所でも違う種から生えてきてしまいます。

対処方法

芽初期(5～6月)に駆除するのが最も効率が高く、10月までの間に数回、同一の場所で抜き取る作業を行います。

クズは、日本在来のつる性の植物で、アレチウリに見た目がよく似ています。食用では葛(くず)切りや葛(くず)もちに使われています。

【見分け方】

葉が五角形のように角張っているのがアレチウリで、丸みがあるのがクズです。花はアレチウリが緑っぽく地味な色に対し、クズは鮮やかな紫色をしています。

オオカワヂシャ



似ている植物：カワヂシャ



特徴

紫色の小さな花を咲かせます。湿地、河川や日当たりのよい水辺に生育します。繁殖力が旺盛であり、在来植物の減少を招きます。花の形は同じオオバコ科のオオイヌフグリとよく似ています。

対処方法

4～5月、9月頃に抜き取り作業を行います。根から再生するため、残さずに抜き取ります。



オオカワヂシャを目撃された方は、下記までご連絡ください!

カワヂシャは、日本在来の植物で、小さな白い花を咲かせます。オオカワヂシャとは同じ種であり、交配による雑種形成でカワヂシャが絶えてしまう危険をはらんでいます。環境省により準絶滅危惧種に指定されています。

【見分け方】

葉の形でのこぎり歯が目立つのがカワヂシャで、目立たないのがオオカワヂシャです。花もカワヂシャは小さく白色に対し、オオカワヂシャは大きく紫色が目立ちます。

オオハンゴンソウ



特徴

大きいもので3mほどまで成長し、黄色い花を咲かせます。湿原等の在来植物と生育環境を競い合い、旺盛な繁殖力で駆逐します。また、その大きさから他の植物への光をさえぎり、生育を阻害してしまいます。

対処方法

結実が始まる前の4～8月頃に抜き取り作業を行います。

オオキンケイギク



特徴

オレンジ色の花を咲かせ、道路沿い等の日当たりの良い場所によく見かけられます。繁殖力が旺盛であり、他の植物に届く光をさえぎり生育を阻害して他の植物種を駆逐してしまいます。また河川敷に侵入した場合、固有の在来植物の減少を招く恐れがあります。

対処方法

5～7月に開花して種子を形成するため、種子散布前の6月頃を目安に抜き取り作業を行います。

駆除した際は、根・種子が拡散しないよう、直ちに市が指定する可燃ごみ袋に入れ中身が出ないように密閉し、燃えるごみとして処分してください。また、下記にご連絡いただければ回収に伺うこともできます。

環境政策課 環境政策係 TEL.62-2917(直通)

臼田支所 経済建設環境係：82-3111(代表) 浅科支所 経済建設環境係：58-2001(代表) 望月支所 経済建設環境係：53-3111(代表)

写真出典：環境省 HP「日本の外来種対策」